

生物科学学会連合 第 16 回定例会議 議事録

日 時：2017 年 10 月 7 日（土）14:00～16:00

場 所：東京大学理学部 2 号館 2 階 223 号室（東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス内）

出欠状況：

出席（加盟団体）： *印は兼任または重複出席者を示す。

運営委員

中野 明彦（生科連 2017-2018 代表）

入江 賢児（生科連副代表） 小林 武彦*（生科連副代表） 宮島 篤 石野 史敏

団体代表

宮下 直*（個体群生態学会）

東原 和成（日本味と匂学会）

菱田 卓（日本遺伝学会）

保尊 隆亨（日本宇宙生物科学学会）

寺田 純雄（日本解剖学会）

大杉 美穂（日本細胞生物学会）

深田 吉孝*（日本時間生物学会）

松永 幸大（日本植物学会）

河野 重行（日本植物形態学会）

福田 裕穂*（日本植物生理学会）

竹居光太郎（日本神経化学学会）

吉村由美子（日本神経科学学会）

後藤由季子（日本生化学会）

可知 直毅（日本生態学会）

宮下 直*（日本生態学会）

都築 功（日本生物教育学会）

豊島 陽子（日本生物物理学会）

渋谷まさと（日本生理学会）

後藤 祐児（日本蛋白質科学会）

岡 良隆（日本動物学会）

丹羽 隆介（日本発生生物学会）

尾崎まみこ（日本比較生理生化学会）

高橋 明義（日本比較内分泌学会）

大久保範聡（日本比較内分泌学会）

天知 誠吾（日本微生物生態学会）

深川 竜郎（日本分子生物学会）

細矢 剛（日本分類学会連合）

（計 25 団体）

欠席（加盟団体）：染色体学会、日本実験動物学会、日本進化学会、日本農芸化学会、

日本免疫学会、日本薬理学会

（計 6 団体）

（加盟合計 31 団体）

出席：浅島 誠（前代表） 深田 吉孝*（会計監査委員）

小林 武彦*（若手キャリア問題検討委員長）

出席（日本学術会議）：

福田 裕穂*（基礎生物学委員会）

出席（オブザーバー）：

北里 洋（自然史学会連合）

岸本 健雄（日本学術会議基礎生物委員会・統合生物委員会 合同動物科学分科会）

（計 2 団体）

（敬称略、団体名 50 音順）

事務局 中西 秀彦 村田 英樹

議題・報告：

1.代表挨拶

中野明彦代表より、定例会議開催に当たっての挨拶がなされた。

2.前回議事録の承認

第 15 回定例会議の議事録案が確認され、原案通り承認された。

3.平成 28 年度(2016 年度)会計監査報告

深田吉孝会計監査委員より、資料に基づき第 15 回定例会議の際に確認されている平

成 28 年度（2016 年度）会計報告について、2017 年 7 月 14 日に深田吉孝、渡邊雄一郎両会計監査委員による会計監査が行われ、監査の結果、正確妥当なものであるとの監査報告がなされ、平成 28 年度（2016 年度）会計報告が承認された。

4.平成 30 年度(2018 年度)予算案について

事務局より、資料に基づき平成 30 年度（2018 年度）予算案について、前年度と同様の活動経費とした旨説明がなされた。協議の結果、原案通り承認された。

5.関連国際会議について

中野代表より、資料に基づき生科連が協賛した「ジェンダーサミット 10」の開催報告が科学技術振興機構からあった旨報告がなされた。

6.IBO・JBO(国際生物学オリンピック)について

都築功国際生物学オリンピック日本委員会委員（日本生物教育学会副会長）より、資料に基づき 2017 年 7 月にイギリスで開催された第 28 回国際生物学オリンピックにおいて、日本代表として参加した高校生 4 名が全員銀メダルを獲得したこと、また、次回はイランで開催予定であることが報告された。

引き続き都築氏より、2020 年には日本（長崎）において第 31 回国際生物学オリンピックが開催されることに伴い、運営資金が必要となるため、配布資料のような寄付依頼のパンフレットを作成したことが報告され、生科連ならびに加盟団体に対して協力依頼がなされた。

また、浅島誠前代表（国際生物学オリンピック日本委員会委員長）からも、重ねて生科連ならびに加盟団体に対する寄付の協力依頼がなされた。

これを受け中野代表より、現在は財政的にも可能であることから、生科連として 30 万円の寄付を行いたいとの提案がなされた。本件について生科連が行う寄付の金額や各加盟団体の対応方法などについて意見交換がなされ、加盟団体の個別事情なども鑑み、第 31 回国際生物学オリンピックについての詳細な情報を提示したうえで、中野代表より改めて各加盟団体宛に対応策の提案がなされることが確認された。

7.若手キャリア問題検討委員会について

小林武彦副代表（若手キャリア問題検討委員会委員長）より、資料に基づき株式会社リサブリックが行う「学術大会を活用した若手会員への就職支援サービスについて」の情報提供がなされた。

8.日本学術会議関連報告

中野代表より、前回定例会議で報告した日本学術会議における生物用語についての検討結果について、資料に基づき基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会が公表した「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」の作成経緯の報告がなされた。

この中で中野代表より、現在の高等学校の教科書「生物」の重要と指定される用語は約 2,000 語ときわめて多く、このままだと「生物」が暗記科目と誤解されてしまうことが懸念されるため、重要用語を約 500 語程度まで絞り込み、「生物」は考える学問であるというメッセージを伝えた。同時に複数の同義語の統一や混乱の見られる用語の呼び換えなどの作業も行っており、今後行われる教科書の改訂の際に反映されることを期待しているとの説明がなされた。

また、中野代表より、今回は短期間かつ少人数で作業を行ったため、これで完全なものとは思っていない。これを各加盟団体に持ち帰って検討し、フィードバックを中野代表宛てに寄せて欲しいとの要望がなされた。

次に日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会の岸本健

雄氏より、資料に基づき国立自然史博物館の設立について、沖縄県が積極的に誘致を進めていくとの報告がなされ、生科連に対しても引き続き協力依頼がなされた。

9.合同大会について

中野代表より、2017年4月にシカゴで開催された EXPERIMENTAL BIOLOGY 2017に参加した際の印象について、規模が大きい6学会を中心に数十学会により構成される合同大会で、巨大な会場で開催されており、日本とは事情が異なるとの報告がなされた。

また、中野代表より日本における他分野での合同大会の情報として、日本地球惑星学会連合について報告がなされ、50の学協会からなる連合体で法人格を有しており、1年に1回合同大会を開催しているが、生命科学系の学会との大きな違いは、地球惑星科学系の学会の多くは大会を年間2回開催していて、このうち1回が学会個別の大会、1回が合同大会となっているため、各学会としての独自性は保たれているとの説明がなされた。

引き続き、日本分子生物学会の深川竜郎氏より、2017年12月に開催される ConBio2017 (2017年度生命科学系学会合同年次大会)について説明がなされ、開催後の検証、評価が重要になるとの見解が示された。

この他中野代表より、資料に基づき、過去の生物系学会の合同大会開催例が報告され、今後の合同大会開催の可能性を探るための検討を行いたい、ConBio2017の開催終了後の次回定例会議において、改めて議論したいとの提案がなされ、了承された。

10.その他

日本動物学会の岡良隆氏より、ORCID (Open Researcher and Contributor ID、世界中の研究者に一意の識別子を与えることを目指す国際的な非営利組織)について紹介がなされ、日本動物学会が窓口となって ORCID 学協会コンソーシアム設立に向けて検討を行っているとの説明がなされた。

中野代表より、次回(第17回)定例会議について、日時は2018年3月5日(月)14時から16時、場所は東京大学理学部2号館2階223号室で開催したいとの提案があり、了承された。

以上